

句会授業の実践報告 1

俳句創作を通じた自己表現と相互交流の可能性

国語科 風 間 重 利

現代文を教える国語科教師にとって短歌・俳句・現代詩は鬼門である。詩に込められていることばの魔力を伝えたいと思うがどうしても上手く行かない。結局は俳人や歌人、詩人の伝記と絡めて授業らしくさせるのが関の山である。その理由は大概の国語科教師が、実作者ではないという事情による。実作に縁の無い教師が1年に1回ぐらい、授業のために付け焼刃で教材研究しても納得の行く鑑賞に辿り着けるものではない。やはり実作者に勝る鑑賞家はいないと思う。そこで、鑑賞中心の授業とは全く異なる発想から授業を組み立てなおすことが出来ないかと常日頃から考えていた。この拙論では、生徒の詩的な表現力やコミュニケーション能力を引き出すことを目指して私が本校52回生（平成10年入学生）を対象に1年3学期後半に実施した「句会」授業についての実践報告を行なう。

キーワード：国語 俳句 句会 表現 コミュニケーション

1 小林恭二著『俳句という遊び』について

たまたま、教材研究のために俳句の教材を漁っていたところ、小林恭二著『俳句という遊び』、『俳句という愉しみ』（ともに岩波新書）に出くわした。勉強不足のため、このような入門書があることを最近まで知らなかったのである。参考として以下に『俳句という遊び』の最初の部分を引用する。

いきなり「句会」と言われても、なんのことやら分らない人も多いだろう。ひょっとしたら「句会」という言葉を聞いたことすらない人もいるかもしれない。

まあ、言葉は知っていても、そのなんたるかは想像がつかない人がほとんどだと思う。それは当然のことである。と言うか、もしあなたが「句会」についてよく知っているつもりなら、その方があやしいと考えた方がいい。なんとなれば、この句会に出席した俳人からして、

「句会って、いったいどんなふうにやるんだっけか？」

とわたしに尋ねたくらいだから。

中には正真正銘句会をやったことがないという人

もいた。それも何十年もの間どっぷりと俳句と付き合ってきた俳人がである。

我が国におけるまっとうな句会の実施状況というのは、ま、そんなものである。ただし、広義の句会は今日も広くおこなわれている。それはたとえばこんな具合である。

ある昼さがり。公民館の一室。上座には「先生」と呼ばれる俳人がデンと座っている。そのまわりは「幹部」と称されるお歴々が固めている。一般俳人は小学校の生徒みたいに、もしくはスターリン時代の査問委員会に呼び出されたモスクワ市民みたいに、はしっこで小さくなっている。それでもってお通夜のように静まりかえっている。

句会が始まる。

出席者全員の俳句が回覧される。（時に、「先生」だけ出句しないときもある。しもじもの句会に俳句を出せるかってなもんだろうか。）出席者はその中からいいと思う俳句を六、七句選ぶ。よみあげられる。ここで人気が集中した句は高点句と呼ばれる。ただしそれに重きがおかれることはまずない。

この手の句会で重視されるのは「先生」が選んだ句だけである。生徒たちが凡眼で選んだ句など何ほ

どの価値もないのだ。先生は自分で選んだ句に対する評価を一方的に述べる。それでおしまい。選に入った者は喜び、選にもれた者はがっかりする。そして次回こそは、なんとしても先生の選に入ろうと決意を新たに家路をたどる……。

こういうのも句会であることには違いがない。

ただまっとうな句会とは言えない。

楽しみが欠如しているし、そもそも俳句を媒介にしたコミュニケーションがない。これでは「座」とは言えない。

それとは別に、いわゆる文化人がやるような句会もある。これは先生がいても形式的で、せいぜい天・地・人をつけるくらい。俳句を味わうよりは互いの俳句をけなして楽しもうというのが、基本的スタイル。楽しんでいる分、さきにあげた句会よりましではある。ましではあるが、この手の句会もまっとうな句会と言いがたい。最初から遊びを看板にかけている分、どうしても手が甘くなる。俳句に対する真摯さが生れない。

(中略)

では、めったにない、そう、俳人だってあまりやらない「まっとうな句会」とはどんなものか？

答はとても簡単である。

俳句を媒介にして、日常とりえないような高度で玄妙なコミュニケーション(=遊び)をとれるような座、そういうのをまっとうな句会という。

えっ、俳句を媒介？ それでもって日常とりえないような高度で玄妙な？ コミュニケーション？
なんだそれは、どういうことだ、もっとちゃんと説明しろ、とあなたは言うかもしれない。

もちろんわたしはその気でいる。ただ少し待ってほしい。その説明こそ、本書そのものになる予定なのだから。(傍線は、引用者が引いたもの)

読み出すといかにも面白く、筆者がいうところの「まっとうな句会」を高校国語の俳句授業で取り組

めば、生徒も教師も相当知恵を絞りことばの感性を磨く機会にもなり、これまでの授業ではあまり本格的に取り組めなかったことばを通じての生徒相互のコミュニケーションを学ばせる機会になるのではと考えて授業実践計画を作成した。

2 授業計画および実際の授業展開

第1回目の授業計画と実際の授業展開

授業計画

小林恭二著『俳句という遊び』一部を読み、句会についての概要を説明する。クラスを座席によって4班に分ける。班員各自に用紙を配り、1人に1語ずつ「題」を書かせる。授業の最後に各班ごとに、提案された全ての「題」(10語程度)をまとめて用紙に記入させ、提出させる。

句会授業での成績評価は、各自が創作した作品の出来不出来によるものではなく、参加態度を評価することを伝える。具体的には、授業中に提出するように指示したものが提出されておれば、その内容に関わらず一律に評価することを伝える。また、優秀句に選ばれたものには、教師が個人的に賞品を用意し、後日授与することを伝える。

実際の授業展開

以下の文章を『俳句という遊び』の中から引用して、プリントをつくりそれを読んだ。特に傍線を付した部分について注意を喚起しながらこれからの授業展開を生徒に理解させた。

いよいよ句会の始まりである。

「題詠」とは何か

この日の俳句は題にしたがって作るようになった。

したがってというのは、その言葉を詠みこんで俳句を作るということだ。こういうのを「題詠」という。いつもこうするというわけではない。むしろ今時題詠の句会など珍しいのではなかろうか。こうい

うのは機知の勝負なのだが、現在の俳句シーンでは機知はあまり重んぜられない。これは、俳句が変質したためでも何でもなく、単に活字発表の機会が増えすぎたからだ、とわたしはにらんでいる。

機知とかシャレとかいうものは、活字にすると妙に間延びしたものになる。鮮度が勝負だから、どうしても時間がたつとしなびてしまうのだ。そして不真面目さだけが目立ってしまう。まったくいいところなしである。逆に句会という場では、機知やシャレ、あるいは挨拶といったものがよく映える。

題詠も本格的になると随分とうるさい決めごとがあるのだが、この場ではいちばん簡単な方法をとった。

つまり「なんでもあり」ということにしたのである。

たとえば、誰かが「公」という題を出したとする。これを「こう」と読んで俳句を作ってもいいし、「おおよけ」と読んでもいい。とにかくこの字が入っていればよい。なんならカタカナで「ハム」と読んでもかまかない。

実際、かつてある雑誌で句会を催したとき「某」という題がでたことがあった。これを大屋達治という俳人がそらとぼけて「甘木」と読み、それでもって、

甘木線甘木終点富有柿

と詠んだ。俳句じたいはこれといったものでもないが（大屋さん失礼）、こういった機知には句会のメンバーをリラックスさせる効用がある。おそらく今日もこんな句がでるだろう。

実際の話、明日にそなえてできるだけリラックスしてほしいというのは、黒衣たちの最大の願望である。

さて、題は各人一題ずつ、そして黒衣のわたしが二題だして全部で十題がでた。

飯田 龍太・春

三橋 敏雄・金（銭も可。要するにマネー）

高橋 睦郎・枝

安井 浩司・種

坪内 稔典・坂

小澤 實・甲斐

田中 裕明・闇

岸本 尚毅・いか（烏賊も可）

小林 眼鏡、まんじゅう

はっきり、言って簡単な題ばかりである。こういうとき破天荒な題がでるとみんな苦しむことになる。

かつてある句会で「右翼」だの「空の色」だのという題がでてえらい苦しんだことがある。みんな大事にいかうとしているのだろう。中でちょっと難しそうなものが、無責任な黒衣のわたしがだした「眼鏡」と「まんじゅう」。これとてさほど面倒なわけではないが、イメージが限定される分、イージーには作れない。その分、ひねった句が出る可能性がある。

目もあてられぬ緊張感

題が発表されると飯田龍太が巻紙様のものをとりだしてきて、それにさらさらと書き、壁にはりつけた。

（中略）

制限時間は九十分。

よーいどんで、全員が一斉に集中状態に入る。

一瞬にして、目もあてられないような緊張感が場を支配する。

（中略）

句会のルール

きっかり九十分後、「時間です」の声。

一瞬ほっとしたような、あきらめたような空気かはする。このあたり試験にも似ている。

ここから簡単に今回の句会の段取りを説明してゆこう。まず各自の手帳なりノートなりに書き留められた俳句が、短冊に書き写される。短冊というと、あの色紙を縦に割ったような、硬くて立派なものを想像する人もいるかもしれないが、ここで言うのはレポート用紙を縦に切っただけのきわめて簡単なものである。ちなみにわたしが学生のときは、レポート用紙でももったいないと、書き損じの紙や裏が白のビラを使ったりした。そう言えば、飲み屋なんかでは割箸の箸袋をひらいて使ったりもした。要するに細長い紙であればなんでもいいのである。 短冊

には作者名は記さない。一句を匿名状態にするためである。

短冊は題ごとに集められる。春は春、まんじゅうはまんじゅうという具合に。集められた短冊は封筒にいれられ、それぞれ出題者のもとに戻される。それを筆跡が分からなくなるよう、出題者が別紙に書き写す。これを清記と呼ぶ。清記は題の数だけできる。これに整理番号をつける。一番は座の最年長者がとる。この場合、飯田龍太が一番をとる。以下、左まわりに二番、三番とくだってゆく。番号をつけおわったら回覧である。段取りは理解できただろうか。

通常は、全体から五句とか六句とか選ぶのであるが、この句会では一題につき二句ずつ選ぶことになった。

しかし、普通に選ぶのではない。一句は集中一番よいと思ったものを選ぶ。これを正選と呼び、プラス一点として計算する。問題はもう一句の方で、これは題の中で一番劣ると思ったものを選ぶ。こいつを逆選と言ひ、マイナス一点で計算する。一言で言うてハードなルールである。いや、邪道と言ってもよい。そもそも普通逆選などまず採用しないし、採用したところで、せいぜい正選三に対して逆選一くらいの割合である。

それを、一対一で選ぼうというのだ。

が、遊びであればルールは厳格であった方が面白い。

実際、最初はとまどっていた出席者たちにも最終的にはこの方法は大受けした。俳句の回覧及び選が終われば、いよいよ選句の発表である、

以上の文章を読んで、これからの授業の展開について説明した後、座席の場所で4班（各班10名程度）に分けて、残った時間で各自1つずつ題を考えさせた。以下がその結果である。

A 1 班 空 苺 昼寝 音 水 氷 道 紙
新社員 光

A 2 班 てふてふ 霞 はし 夢 しわ ぜいたく
ひざ 河童 わさび 毛虫

A 3 班 スキー 土建業 トンボ 屋根 雪山
初恋 信号 運 消しゴム

A 4 班 ぼうず 空 顔 鉄板 家なき子 いちご
ロン毛 カンパン みみ なすび

B 1 班 山笑う アスパラガス 春暁 球 つばめ
つばき 花 日記 学校 春

B 2 班 腹 パンダ ベンチ 水 砂 うさぎ
朝 踊り かなづち かぜ

B 3 班 雪 水滴 桜 電動アシスト自転車 小林
旅 音 カビ 琴柱灯籠 ゴミ箱

B 4 班 茂 恵む 涼 キムチ 龍 虹 アマゾン
マシュマロ 葉 紅

C 1 班 クリントン おぶち 如月祭 海 春一番
宴会 ガッパ インフルエンザ

C 2 班 雪解け 花火 桜 自転車 空缶 窓 風
緑茶 動物園 水

C 3 班 空 猫 風呂 大根 虹 骨 日本海
ピンク 草 星

C 4 班 春休み 雪解け 0（ゼロ） 四月 桜
つくし かえる 花 昼寝 入学

第2回目の授業計画と実際の授業展開

授業計画

第1回目で各班ごとに提出させた「題」の一覧を各班に戻す。生徒には自分の控え用の用紙と、投句用の用紙とを配り、各題ごとに1句俳句の制作を指示する。句作の参考として春の季語の一覧プリントを各自に配布する。また、歳時記を各班に1冊ないし2冊配布する。出来上がった俳句を、記名する控え用紙と無記名の投句用紙に書き込ませ、控え用紙は各自で保管させ、投句用紙は投句用の封筒に入れさせる。授業が終われば封筒だけ回収する。

実際の授業展開

最初から班別に机を集めて、周りを囲んで座席に着くように指示していたが、10人を一まとめにする

準備だけで5分ほどかかった。季語一覧プリントは、歳時記の春の季語の索引をコピーして各自に配布したが、その内容は生徒にとって（私にとっても）ピンと来ないものが多く、少しでも具体化できるようにと校内で用意できる歳時記を各班に1、2冊配布し、それを参考にするようにと指示する。投句用紙と控え用紙の使い分け、投句の方法については何度か繰り返して説明する必要があった。句作は、側にいる人と話しながらかけてもよいし、みんなから離れて一人で取り組んでもよいと伝える。句作と投句は出来る限り今の時間と次の時間の2時間の授業時間内で行うように指示した。ただし、間に合わないと思うものには、前もって家で考えてきてもかまわないと伝える。実際にこの授業で句作に使えた時間は30分程度で、途中までしか投句できないものが殆どであった。最後に、次回の授業の予定を伝える。

第3回目の授業計画と実際の授業展開

授業計画

第2回目引き続き俳句の制作を行なわせる。授業終了15分前までに投句を終了させる。残り時間で、各題ごとに清書用紙を配り、生徒1人に1題ずつ担当させ投句された俳句を清書させる。清書用紙を回収する。

実際の授業展開

班毎に集まって、授業に入ることはスムーズに出来た。ただし、短時間にみんなと一緒にいて10句程度を作るのは相当困難らしく、とても終了15分前には投句が完了しなかった。仕方が無いので、この時間に終わらなかったグループ（半数以上）については、次回の授業までには第3回目までの予定を完了させて、清書用紙をこちらまでに届けるように指示を出す。

第4回目の授業計画と実際の授業展開

授業計画

第3回目回収した清書用紙を各班に戻し、班毎に回し読みをさせる。投票用紙を各自に配布し、各題毎に「優れている」と思う秀句2句、「これはどうか」と思う問題句2句をそれぞれ投票させる。但し、自作の句への投票は認めないこととする。投票は授業終了15分前に完了させる。残った時間で集計をさせ、その結果を各題毎に清書した用紙に記入させる。投票結果を記入させた清書用紙と各自に保管させていた控え用紙を回収する。

実際の授業展開

清書用紙の回し読みは、周囲の班員といろいろ話し合っ、意見を交換しながら行うように指示を出す。誰が作ったかわからない分、随分、面白がってがやがや盛んに話し込みながら回し読みをしていた。投票に関しては、これまでの自分の読みと、他者との話し合いの中で感じたことをもとに自分なりの判断を下していくようにと指示を出す。

開票のときが一番盛り上がっていた。自分が投票したものや他人が投票したものがぴったり当たっていたり、全然違っていたりすることが面白かったようである。開票後、優秀句の清書にかかるが、得点計算をするために作者の名前が明かされることになり、また班毎に大騒ぎになる。意外な作者に驚かされたことが多かったようである。得点結果は以下のようになった。

A組成績

1班	1位17点	2位12点	3位5点	4位2点
	5位-2点	5位-2点	5位-2点	
	8位-7点	9位-8点	10位-18点	
2班	1位15点	2位12点	3位9点	4位6点
	5位1点	5位1点	7位0点	8位-7点
	9位-8点	10位-22点		

3 班 1 位14点 2 位13点 3 位 9 点 4 位 8 点
 5 位 1 点 6 位－2 点 6 位－2 点
 8 位－6 点 9 位－27点
 4 班 1 位21点 2 位11点 3 位10点 4 位 7 点
 5 位－1 点 6 位－3 点 7 位－10点
 8 位－13点 8 位－13点 10位－22点

B 組成績

1 班 1 位13点 2 位12点 3 位 3 点 4 位 2 点
 5 位－1 点 6 位－3 点 6 位－3 点
 8 位－4 点 9 位－5 点 10位－6 点
 2 班 1 位 9 点 2 位 7 点 3 位 6 点 4 位 5 点
 5 位 2 点 6 位 1 点 7 位－1 点
 8 位－3 点 9 位－9 点 10位－13
 3 班 1 位18点 2 位15点 3 位10点 4 位 7 点
 5 位 5 点 6 位 3 点 7 位－4 点
 8 位－7 点 9 位－17点 10位－29点
 4 班 1 位15点 2 位 7 点 3 位 3 点 4 位 0 点
 4 位 0 点 6 位－4 点 7 位－8 点
 8 位－9 点 9 位－14点

C 組成績

1 班 1 位12点 1 位12点 3 位10点 4 位 2 点
 5 位 1 点 6 位 0 点 6 位 0 点 8 位－9 点
 9 位－11点 10位－23
 2 班 1 位16点 2 位 5 点 3 位 1 点 3 位 1 点
 5 位－1 点 5 位－1 点 7 位－3 点
 7 位－3 点 9 位－6 点 10位－7 点
 3 班 1 位19点 2 位13点 3 位 8 点 4 位 7 点
 4 位 7 点 6 位 4 点 7 位－6 点
 7 位－6 点 8 位－7 点 9 位－53点
 4 班 1 位14点 2 位 9 点 3 位 5 点 4 位 1 点
 5 位 0 点 6 位－1 点 7 位－12点
 8 位－16点

第 5 回目の授業計画と実際の授業展開

授業計画

各題毎に最も評価が高かった句の一覧をプリントし、何人かの制作者に自作の句の解説をさせ、その作り方についても話をさせる。全員には自分が出題した題で最優秀句に選ばれた句について、短い鑑賞文を書かせ提出させる。全員の鑑賞文は第 6 回目の授業でプリントして配布すると伝える。

実際の授業展開

この時間は、班単位ではなく、クラス単位の授業に切り替え、最初に優秀句に選出された生徒が自作の句について解説したが、その解説が俳句以上に面白くて相当に盛り上がった発表になった。

その後、自分が出題した題で優秀句に選ばれた句について 200 時程度で鑑賞文を書かせた。自分で出した題で自分の句が最優秀句に選ばれた場合は、自分の句について鑑賞文を書かせた。これは相当やりにくかったようだ。第 6 回目に、全員の鑑賞文を印刷して各自に配布した。以下にその鑑賞文のいくつかを紹介する。

たんぼの 綿毛に夢を 乗せて吹く（「夢」）

この俳句からは、春の土手で胸いっぱいにくらんだ夢を、どこへでも自由に飛んで行けるたんぼの綿毛に乗せて飛ばしている情景が読み取れる。前向きな姿勢が明るい未来を暗示していて、心が軽くなってくる俳句だと思う。綿毛とともに、夢も空高く舞い上がって、早く叶って欲しい。 女

耕した 田んぼのあぜ道 猫が行く（「道」）

まず、春を耕した田んぼで表していてうまいと思いました。そしてそこにのんびりとした猫がいて、本当にほのぼのとした感じが良く出ています。

個人的にこういう雰囲気がとても好きなので、すごく気に入りました。あぜ道のあたたかさが全体をや

わらかくしてすごく懐かしい俳句でした。 男

消しゴムの 頭丸めて 卒業式 (「消しゴム」)

入学してから卒業するまでの間に様々なことを経験しましたその人なりに努力もしてそして消しゴムは消耗して小さくはなってしまったけれども、人間としては一回りも二回りも大きくなって卒業していくという感じがした。また、これまでの学校生活でやり残したことがなく卒業していくという感じもした。 男

ふわふわと マシュマロの様な 春の夢

「マシュマロ」すぐに溶けてしまう甘い、誰もが知っているお菓子と春に見る夢をうまく「ふわふわ」という言葉でつないでいる。この言葉が春に見る夢は甘く、心ときめく、例えるならまさにマシュマロだということをうまく表現している。なんだか春の暖かさも伝わってきそうな良い作品となっている。 女

最後に時間が余ったので、クラス全体での最優秀句を決定しようということになって投票を行った。結果発表は、次の時間に行うと伝える。

第6回目の授業計画と実際の授業展開

授業計画

最初に、班毎の句会の成績発表を行なう。これは優秀者のみの発表とし、賞品は後で教官室まで取りに来るように伝える。その後班毎に分かれる。第5回目の授業で書かせた全員の鑑賞文をプリントし各自に配布する。その後、それを読みながら、優れた俳句に選ばれた句にはどんな特徴があるかについて班員相互で感想を述べ合う時間を持つ。最後に今回の授業を振り返ってどんな感想を持ったかを各自にB5用紙1枚程度書かせて提出させる。

実際の授業展開

成績発表はなかなか盛り上がった。大体仲間から

上手いだろう予想されていたものもいたが、いつもは目立たない全く意外な人物が高得点を取っていたりしてみんなが驚くという場面も多くあった。生徒の気持ちを考慮して、マイナスの評価の発表はしなかったが、そのような評価を受けた生徒にはほっとした生徒がいるかと思うと、ぜひ発表して欲しいと迫る生徒もあり、いろいろだなあと思う。

また、第5回目の授業の最後に選んだクラス全体での優秀句についてその結果をプリントして生徒に配布する。結果は以下の通りとなった。

A組優秀俳句

- | | | |
|-----|-----------------|---|
| 1 位 | 題 (夢) | |
| | たんぼぼの綿毛に夢を乗せて吹く | 女 |
| 1 位 | 題 (かすみ) | |
| | ふるさとの野山気づけば春霞 | 女 |
| 3 位 | 題 (氷) | |
| | 流水が北の大地に春贈る | 男 |
| 3 位 | 題 (空) | |
| | 卒業の歌がこだます涙空 | 女 |
| 5 位 | 題 (ぜいたく) | |
| | ぜいたくな花の絨毯春限定 | 女 |
| 5 位 | 題 (消しゴム) | |
| | 消しゴムの頭丸めて卒業式 | 男 |
| 7 位 | 題 (信号) | |
| | ふきのとう春への道の青信号 | 男 |
| 7 位 | 題 (ひざ) | |
| | 土筆摘む童のひざは泥だらけ | 女 |
| 7 位 | 題 (道) | |
| | 耕した田んぼのあぜ道猫がゆく | 女 |
| 7 位 | 題 (なすび) | |
| | なすびの芽夏の紫えがかせて | 女 |

B組優秀俳句

- | | | |
|-----|---------------|---|
| 1 位 | 題 (龍) | |
| | 放課後のほほに冷たい烏龍茶 | 女 |

2 位	題（紅）	
突然に紅色の恋燃ゆる		男
3 位	題（小林）	
雪とけて山いっぱい的小林かな		男
3 位	題（音）	
春の音に耳をすませば風ひとつ		男
3 位	題（水滴）	
水滴に桜が込めた桃一色		男
6 位	題（花）	
花いかだその上光がはねおどる		女
7 位	題（日記）	
いい日記題の上に花が咲く		女
7 位	題（花）	
風船に願いを込める花よ咲け		女
9 位	題（茂）	
トラクターせまる茂みに野鳩の巣		女
9 位	題（涼）	
涼雨降り狂おしく舞う花吹雪		男
9 位	題（砂）	
中国の春のたよりは砂ぼこり		女
9 位	題（つばめ）	
口開けて御飯をまてないつばめの子		男

C組優秀俳句及び作者氏名

1 位	題（ピンク）	
花が咲くピンクのクレヨンもうないよ		男
2 位	題（クリントン）	
雪溶けて有罪お流れクリントン		女
2 位	題（おぶち）	
春がきておぶちぶちぶちじんましん		男
2 位	題（如月祭）	
如月祭キザにラリってキザラリ祭		男
2 位	題（空缶）	
空缶をどかして発見つくしんぼう		男
6 位	題（花火）	
菜の花に打ち上げ花火を重ね見て		男

6 位	題（春一番）	
春一番彼が不倫でバツイチバン		男
8 位	題（昼寝）	
幸せな夢にだかれて昼寝する		女
8 位	題（猫）	
塀の上猫のあくびで春感ず		女
8 位	題（骨）	
冬眠をしてたつもりが今や骨		女

その後、第5回目の授業で全員に提出させた俳句の鑑賞文を印刷したプリントを配り、俳句と鑑賞文をつき合わせてどんな感想を持ったかを、班の中で話し合わせた。優秀句とその鑑賞文を読んで、優れていると認められた句に共通する点について考えさせる。どの班も結局は同じような結論に達していたのは、考えさせられた。

最後に、今回の授業全体を通して率直な感想を記して欲しいと伝え、生徒にB5用紙1枚を与え、残った時間で感想を書かせた。

3 句会授業についての52回生の感想

生徒が記した今回の句会授業についての感想を、句作において生徒間で高い評価を受けることができた生徒と、厳しい評価を下された生徒に分けていくつか紹介する。

相互評価で高い評価を受けた生徒の感想文

- 1 私がこんなに自分で納得のいく俳句を作ることが出来たのは初めてです。題から自分たちで考えるという方式がとても楽しくて、リラックスして作れました。……良い句が出来て、友達にも評価してもらえたということがとても嬉しかったです。それにしても鑑賞文は難しかったです。友達の俳句を評価できたのも良かったです。私ならどうしてよいかわからないような題からとてもよい句を

考えている人もいて本当にすごいと思いました。句会のときは名前を伏せてあったのでよかったけれど、最後に自分の書いたものがプリントになって配られたときは本当に恥ずかしかったです。この句会のおかげで俳句を作るのが楽しいと思えるようになりました。こういう形でまたやってみたいですね。 女

2 すごく楽しかったです。こんな機会でもない限り、自分の句を人に見せてしかも評価されるなどということは無いので、すごくいい経験になりました。 男

3 俳句・短歌は難しいと思う。優秀者に選ばれたけれども人の作った句を読んで、自分はまだまだ未熟だと思った。……自分は技巧的なものもいいと思うが、自分の思ったことを素直に表現することが生き生きしていて句会などではいいことなのではないかと思った。 男

4 俳句という、もの静かに一人で創るというイメージがあって嫌いではないけれども何かとっつきにくいような気がしていた。今回したような句会ならばそれとは違う一種のゲームのような緊張感があって、何回でもしてみたいなと思った。 男

5 俳句は17音というとても短い中に、季語まで詠み込まなくてはならないとあってとても難しかったです。その上、今回はお題つき。やたらと長い題があったり、春と全く結び付けられないような題があったりで大変でした。それもまた、句会の面白さかもしれないけど。今回俳句をつくる際に歳時記に随分助けてもらったけれど、日頃から季節の言葉や景色に気を配って、そういう知識を沢山持った人になれば素敵だなと思いました。 女

6 今まで授業とかで何度か句をつくってきたけれど、今回みたいにあらかじめ題を決めてやるのは初めてだったので、すごく面白かったです。やりにくい題とかもあったけれど、がんばって考えて、すっかりおさまるのが出来ると嬉しいし、季語と

か使うと大体おさまるので、比較的どの題もやりやすかったと思います。俳句はいろいろ考えて作るより、題を見た直後初めて思ったこと（言葉や情景など）をふくらませるという形で作ったら自然と五七五にもおさまってうまくいくと思いました。 女

7 今まで、今回のように俳句を作った経験なんてありませんでした。でも、実際作ってみると、意外に楽しくて、友達といろいろ作ったのを言い合ったりしました。題もいろいろむずかしいものもあったし、すぐ作れたのもあったし、それぞれでしたが、むずかしいものはみんなも難しいと思っていたし、投票も名前はわからないままだったので安心してすることが出来ました。俳句のことをしている間は新聞の俳句のところを見たり、ちょっとした時に思いついた言葉などを書きとめたりすると、結構便利だなあと実感しました。自分が出題した題についての鑑賞文を書くのも少し苦労しました。なぜかという自分とその句について思ったことと、作った人の考えとが違ったりしたら、相手に悪いからです。俳句は五七五で短く思ったことをまとめるのは大変だけど、もし、俳句をサラッと作れるようになったらカッコいいなあと思います。 女

8 この授業は今までの授業と全く違って、みんなでワイワイ言いながらの授業ですごく楽しかった。現代国語は不得意な私がこの句会で活躍でき、本当に嬉しかった。この授業で学んだことは、俳句は新たな発見を気づかせてくれるものだということだ。日々当たり前だと思っていたことが、考えてみると、とても奥深いものだったということは今回度々あり、本当に私にとってとても意味のあるものだったと思う。本当にいい授業あった。 女

9 句会というものは私にとって初めての体験で、そんなの難しいよと思っていたが、いつの間にか俳句を作る喜びに浸っている自分がいた。各人か

ら出された題、その題をじっと見つめそのことが私にとってどんな存在か、どんなことば、特徴があるか、自分がみんなに伝えたい、句に入れたいことは何か考え、そこから景色をイメージし、だんだん想像をふくらませていく。春に生じる、心が明るくて楽しい気分をみんなにも伝えたいなあ、私の10句の句はそんな気持ちから生まれたもので、評価されてとても嬉しかった。ちょっとした単語、そういうものを何倍にもふくらませてイメージを深めていく、そういう喜び、楽しさをこの句会で学ぶことが出来た。これからいろいろな場で俳句と深く関わっていきたいと思う。 女

相互評価で厳しい評価を受けた生徒の感想文

- 1 俳句というのは、作者とそれを詠む者の間にどうしても隔たりが生じてしまう。実際、僕も「なんだこれ？」と思うものも有ったし、皆も僕を見て「は？」と思ったことだろう。……僕は22点位だったのですげえーと思った。やはり僕の思考は他の人とかけ離れているのだろう。それは僕が「これはいい」と思ったものに皆がバツをつけていたことでも良く解る。先生は上手い人のを手本にしろと言ったが、俺は俺の世界があるのでいやだ。……班のやつが皆真面目すぎて面白くなかった。 男
- 2 句を作るのは簡単とは言えなかった。題に対するイメージを自分の過去、経験から引き出してこなければ作れないからだ。この句会でどうしてこんな句がイメージできるのか不思議に思われるくらいの句が出てきた。特に思ったことは、温かい句というものが人々の心になじみを与えやすいので結構上位に入っていたと思う。できれば、芯から冷めるような非情な句もほしかったと思った。日常ふとしたものを見て何かを感じられる心があればと思う今日この頃。 男

- 3 考えてもなかなかいい作品ができないのにはまいった。俳句なんてセンスの問題だから、考えたところでどうにもならないことがわかった。 男
- 4 句会は初めてやったけれど、やっぱりこういうのは苦手だと実感した。特に題を与えられると逆にしぼられすぎてやりにくい気もした。他の人の句を読んだら、よくこんな句が作れるなと思った。やっぱりうまく詠むには集中して想像力をはたかさなければいけないと思った。でも、やはり俳句は苦手ですね。 男
- 5 非常に画期的な授業であった。自分の能力は出し切れなかったが……僕は下ねたと思われる句が多かったように見られましたが、俳句でも何でも中途半端で目立たないことは大変残念でありますから上位が取れそうに無い以上は、疑問句でトップを取ってやろうと思ひ一生懸命で作りました。疑問句を作ろうと思っても作れない人もいますからこれも能力だと思わせてもらいます。……またの機会を楽しみにしています。男
- 6 新鮮な体験だった。今まで俳句を授業で作ったことは何度かあったが、今回のように班毎に別れ鑑賞したのは初めてだった。俳句についてはいくつもの題があると、作りやすいのもあれば作りにくいものもある。作りにくいのは強引に字数だけを合わせてしまった。やっぱり上手い人というのはどんな題でも大体上手い。どこからあんな表現が出てくるのだろうと思う。なんとも言いがたい雰囲気をもし出している。全体としては面白かったがもうやらなくていい。 男
- 7 僕達の班はまともな題とふざけた題とが半々だったけど、どちらの題でもかっこよくもっていく人やどちらの題でも下ネタにもっていく人がいた。いずれにせよ、面白い句が多くとても楽しめた。僕の俳句は疑問句しか取れなかった。が、もうちょっとで秀句を取れそうなものもあったので実力はあると思った。各班の最優秀者の話を聞いていると、

よい題は景色が思い浮かぶそうだが、僕も景色を思い浮かべてかいた句が秀句になりそうだった。悪い題では歳時記の季語の一覧を見て書いたそう。僕はその場合は疑問句ねらいで書いてしまったので次回はそこを改善したい。そして今度こそ最優秀賞を取りたい。 男

8 句会というものに自分は才能が皆無だということがあった。俳句というものは、身近にある出来事を短い文章にギュッとつめて表現しているのハッと気づかせてくれるものが多いと思った。句会というものもたまにはいいと思った。しかし、才能の無い人にとっては悲しいです。 女

9 私にはあまり興味深いものではなかった。周りの人の俳句を見てもどれがいい作品なのかもわからずただ直感で選んだ。いろいろな題があってこれは簡単そうだったけどいざ考えてみるとなかなか思い浮かばず、季語も使っていない単調なものしか考え付かなかった。句会というものは初めてだったけど今回で十分いい経験をして自分の未熟さもとことん思い知らされたのでこれっきりで満足だ。〇〇君や××さんはすごい、よくそこまで考えが広がるもんだと感心した。 女

4 52回生授業の成果と反省

全生徒に書かせた授業の感想文を通して確認できた授業の成果と反省について以下に記す。

主な成果としては、次ぎの1から5が上げられる。

- 1 句会授業がどの生徒にとっても初めての体験であって相当新鮮な印象が残ったこと。
- 2 ほぼ全員がゲーム感覚で面白く授業に参加しながら、俳句の制作・相互評価を通じて言語感覚を磨く機会とできたこと。
- 3 授業を通じて、グループやクラスの中で普段の授業では実現できない、言語感覚をテーマとする豊かなコミュニケーションが取れたこと。

4 句会を通じて、グループ内で自分たちなりに優れた俳句表現とはどのようなものかについての認識が生じたこと。

5 今回の句会を通じて、俳句制作の楽しさを体験されたり、日常の生活を俳句に表現する興味や関心を相当引き出すことが出来たこと。

主な反省点としては、次ぎの1から6が上げられる。

- 1 グループによる和やかな雰囲気での授業ということ重視して、最初の指導のときに、句会での自由さと面白さを強調したために、グループで出された題がやや好き勝手に流れてしまったこと。
- 2 句会での機知やユーモアを強調したために、一部に最初からふざけた句を作ることに走る生徒が出てしまったこと。本人は機知やユーモアを狙っているつもりでも、周りには下品さしか感じさせない句を作ることに専念する生徒が出たこと。
- 3 グループ内やクラス内での生徒相互の俳句の評価基準が授業計画の最後にはそれなりに確立されていたが、それについての教師側からの適切な評価やアドバイスが出来たかどうかについての疑問が残ったこと。
- 4 相互評価で厳しい評価を受けた生徒の中に、「俳句の表現力は本人の持つ才能によるもので、自分には才能が無いからどうせ上手く出来ない」と強く思うものがでたこと。
- 5 班編成の規模（1班10名程度）が、少し大きすぎて、班の中での話し合いの密度が薄れたという指摘があったこと。
- 6 俳句であるから必ず季語が必要であると指示して、各班毎に1，2冊ずつ大判の歳時記を用意したが、季語が沢山有り過ぎることと、生徒には全く意味がわからない季語が多数有り、やや生徒が混乱したところがあった。それも学習といえればそれまでだが、短い時間に多くの句を作成させることを考えれば、もう少し生徒にもわかりやすい精

選された季語の一覧を作って、各自に配布したほうがよかった。

52回生の句会授業の実践を通じて私がつくづく実感したことは、生徒が自己表現の欲求を非常に強く持っていることである。普段の授業で指名して答えさせたりすると大抵はいやな顔する生徒がこの授業では、側にいる生徒同士で意見交換しながら見違えるほど楽しげに俳句を作ったり、その出来栄について各自の意見を述べ合って評価をしたりする姿を見て驚く場面が多くあった。普段表には見えにくい生徒の表現意欲や能力も、条件さえ整えていけば画期的に引き出すことが出来ることを痛感した。この授業は、授業計画が行き詰った末の苦し紛れの実施であったが、思いのほかの結果が出た。この授業の成果と反省をもとにもう少し計画を緻密に練り直して、再実施したいと思った。また、普段の授業に対する不満も句会授業に関する生徒の感想文からは読み取られ、教師としても反省させられ学ぶことが多かった。

今回はこの稿に引き続き本校55回生（平成13年度入学生）を対象に1年の2学期末に実施した「句会」授業についての実践報告を行なう予定である。